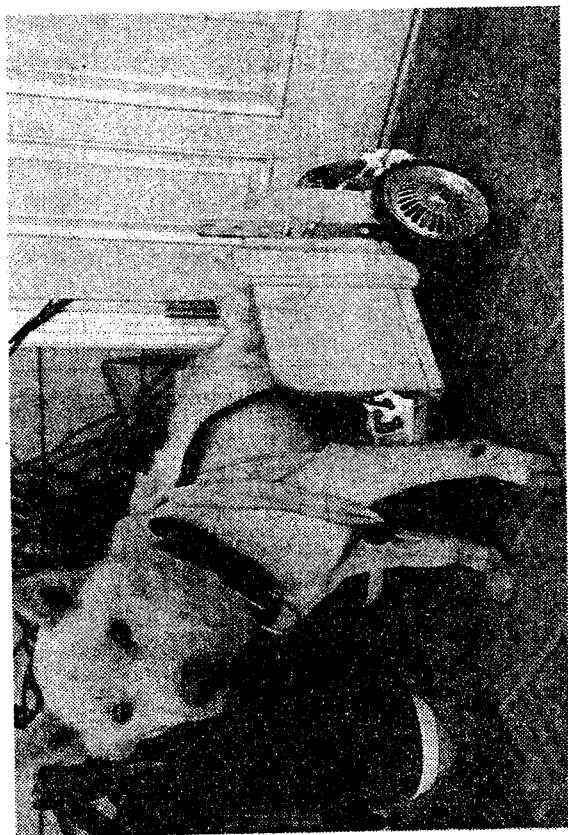


薄幸のペットに愛は惜しみなく 津の「赤い首輪の会」



二十日からの動物愛護週間をきっかけに、もっと犬や猫たちに目を向けてと訴える人たちがいる。津市を中心に「赤い首輪の会」として活動し、傷ついた動物や迷った飼い主などの世話をしている津市の公務員山腰由紀子さん（まのこ）と、居市の公務員坂本摩子さん（まのこ）だ。

病院へ、斎場へ、里親探し…

7カ月で100匹世話

山腰さんは昨年十二月末のある日、犬が車にはねられてひん死の重傷を負ったと聞き、市内の動物病院へ駆けつけた。二時間半の手術のあいだで命は取りとめたものの、下半身は全く不機。

赤い首輪をした犬は、チロと名付けられた。飼い主も見つからず、かわいそうと二人は知り合いに頼んで三輪車を改造したチロ用の車いすを作ってもらった。しかし歩けるようになつた喜びもつかの間、この傷が原因で一月十日にチロは衰弱死した。

山腰さんはこれを契機に、チロがしていた首輪にちなんで「赤い首輪の会」を結成、本格的に轢断の犬や猫の救助や後援、ペットの里親探しに乗り出した。

車に段ボールと新聞紙を積み、仕事の終わった夜に津市内をパトロール。車にひかれ、手遅れの動物は斎場へ。風のあるものは病院へ運ぶ。路頭に迷ったペットを連れ帰る一方で、引き取り手を探すため月一回鈴鹿市のペットショップで開かれる里親大会に連れていき、引き取り手を探す。会

結成から七カ月、世話した動物は百匹をすぎ、山腰さん宅にはいま、犬四匹、猫六匹が引き取られている。

山腰さんは「犬や猫をはねしましても、傷つておかないで」「ペットの首輪には飼い主の電話番号、住所を書き、いなくなったら警察、保健所に届け」と訴えている。

赤い首輪の会では募金のカンバを募っている。連絡先は山腰さん 0592(37)38811が坂本さん 0592(2)09911へ。